

新型コロナウイルス感染症対策特別委員会県内調査報告書

令和2年12月11日（金）に、「新型コロナウイルス感染症対策」について調査を実施したところ、その概要は次のとおりでした。

神奈川県議会議長 嶋 村 ただし 殿

新型コロナウイルス感染症対策  
特別委員会

委員長 藤 代 ゆうや

新型コロナウイルス感染症対策特別委員会  
県内調査報告書

令和2年12月11日（金）

## 1 調査の概要

- (1) 調査箇所 臨時の仮設医療施設
- (2) 出席委員 藤代委員長、作山副委員長、  
大村、高橋(延)、川崎、新堀、原、加藤(元)、土井、市川(さ)、  
栄居、松本、佐々木(正)、近藤、さとう(知)、君嶋の各委員
- (3) 調査日 令和2年12月11日(金)

## 2 臨時の仮設医療施設

### (1) 調査目的

臨時の仮設医療施設は、医療崩壊を防ぐ医療提供体制神奈川モデルの一環として、新型コロナウイルス感染症の中等症患者を受け入れる重点医療機関の病床数を確保するために設置された。新型コロナウイルス感染症は冬季にかけて感染が拡大するおそれがあると言われており、今後、同施設の役割はますます重要となると考えられる。

そこで、当施設を調査することにより、本県の新型コロナウイルス感染症対策に関する委員会調査の参考に資する。

### (2) 主な説明項目

臨時の仮設医療施設は、新型インフルエンザ等対策特別措置法第48条第1項に基づき神奈川県知事が設置する臨時の医療施設であり、180床規模の入院施設を備えている。なお、運営は医療法人沖縄徳洲会に委託している。

対象患者は、新型コロナウイルス感染症の陽性の中等症患者、人工透析患者、精神疾患合併患者であり、中等症患者の酸素吸入は行うが、人工呼吸器などの補助治療は行わない。

患者の受入れについては、新型コロナウイルス感染症神奈川県対策本部搬送調整班から、または直接病院からの要請により、24時間体制で行っている。加えて、消防本部からの要請による受入れ（救急隊からの直接要請は不可）、鎌倉保健福祉事務所からの紹介による受入れの場合もある。

病床の稼働状況については、開設当初の令和2年5月の利用率が平均10.1%、6月が6.0%、7月が17.7%であったが、8月に49.8%になってからは、50%前後で推移し、直近のデータである11月は50.1%となっている。

### (3) 主な質疑応答

**質 疑** 臨時の仮設医療施設は5棟設置されており、本日現在3棟109床が稼働しているが、今後、稼働棟数が増えていった場合の人員確保はどのようにになっているのか確認したい。

**応 答** 現在、当施設の運営は医療法人沖縄徳洲会に委託している。沖縄徳洲会はグループの病院に声かけを行い、看護師等の人員の増員を行っ

ており、グループ全体で調整しているところである。

**質 疑** 当施設では中等症患者を受け入れているとのことだが、県内では、新型コロナウイルス感染者の中でも重症の病床稼働率が約70%に迫る勢いで、中等症も約70%くらいであると承知している。これから4棟、5棟と稼働を増やせば当施設で中等症患者は受け入れられると思うが、重症患者をどのように受け入れるかが問われていると思う。重症患者を受け入れる可能性はあるのか、物理的な制限等もあれば伺いたい。

**応 答** 臨時の仮設医療施設については、中等症患者を受け入れるための備え、医療設備を入れている。重症患者を受け入れるとなると、場合によってはECMOや人工呼吸器といった設備が必要となり、今、当施設にはそれらの設備はない。県全体の中での運用でこの施設を回していくということになるかと思う。

**質 疑** それは、例えば、機器を整備すれば重症患者も診られるということか。重症患者向けの確保病床は県で100床だが、現状70人に迫るといった勢いの中で、万が一ということも考えてそのような質問をしたが、いかがか。本会議での知事からの答弁でも、確保病床をしっかりと調えるのは難しいという話があった。せつかく、今後4棟目、5棟目を整備するに当たっては、状況次第でそういったことを念頭に入れて、いろいろな対応をしていかなければならないと思ってお伺いしているところである。

**応 答** 確かに、設備を入れれば、何とか対応できるということはあるかもしれない。4棟目、5棟目を開くに当たっては、その辺りの議論もした。そういった中で、中等症患者をしっかりと受け入れるという当初からのコンセプトがあるので、このコンセプトは一定程度生かしていかなければならないということもある。また、もし当施設で重症患者を扱うということになると、患者を診るスタッフの手技なども変わってくる。例えば、ECMOを扱うことになれば、それなりに習熟した看護師が必要になる。

確かに、中等症患者を受け入れる当施設に重症患者を診られるような備えがあると安心感が高まると思うが、もともと配備している設備、コンセプトなどをもろもろ考えると、当施設は中等症患者に集中し、重症患者については、神奈川県全体の病床の中でやりくりしていくということを検討しているところである。

**質 疑** 今の件に関連して、神奈川県が独自に新基準の入院優先度判断スコアをつくったので、それを当施設に適用すればよいのではないか。重

症患者病床にはそのスタッフ、ECMOや人工呼吸器も必要である。重症患者を受け入れる大学病院などの病院も神奈川県は確保しているので、当施設は明確に中等症患者しか受け入れないと位置づければよいと考える。そしてその際、このスコアを活用することも検討してよいのではないかと考えるが、いかがか。

**応 答** 今、御指摘いただいたのはそのとおりであり、当施設においても医療危機対策統括官が整理した入院優先度判断スコアによって運用している。今までの最大稼働状況は60床だったが、現在は50床となっており、スコアが反映されて、状況としては患者数も少しずつ落ち着いてくるのではないかと考えている。

(※ 上記以外の質疑については、視察中に随時行われた。)



#### (4) 調査結果

臨時の仮設医療施設では、県内で新型コロナウイルス感染症に対峙する最前線の一つとして、懸命な治療が行われていた。

現地では、医局、ナースステーション、稼働前の病棟を視察させていただいたが、コロナ禍は一向に収束していないという状況を再認識せざるを得なかった。また、施設で働く医師、看護師等の現地スタッフからの生の声を聞き取ることができ、当施設は他施設等と同じく厳しい状況であるものの、スタッフの方々はモチベーションを高く持ち日々の業務に当たっているとのことであった。

以上のように、臨時の仮設医療施設を調査したことにより、本県の新型コロナウイルス感染症対策の状況や今後の施策等を調査する上で、参考に資することができた。

<参 考>

- 1 随 行 者 結 束 主 任 主 事（議 会 局 議 事 課）、鈴 木 副 主 幹（健 康 医 療 局 医 療 危 機 対 策 本 部 室）、堤 主 任 主 事（産 業 労 働 局 総 務 室）
  
- 2 調 査 箇 所 側 出 席 者  
臨 時 の 仮 設 医 療 施 設  
集 中 治 療 部 長、事 務 課 長、看 護 主 任  
篠 原 医 療 危 機 対 策 本 部 室 長、市 川 医 療 課 副 課 長